

すうがく

北海道算数数学教育会
中学校部会発行

<http://hokusuukyuu-cyuu.com/>

第68回 北海道算数数学教育研究大会



札幌大会を振り返って

研究主題：「社会に生きる、社会に活かす」算数・数学教育の探究
中学校部会の研究主題：「生きる力」を育てる数学教育の実践研究



北海道算数数学教育会 中学校部会長
札幌市立八条中学校長 秦 豊治

新しい年を迎えて、北数教の会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、第68回北数教札幌大会は、会員の皆様方をはじめ関係機関各位のご理解と多大なご支援により無事終了することができました。あらためて感謝申し上げます。中学校部会の授業会場校となりました札幌市立琴似中学校 鷹橋淳治校長先生はじめ教職員の皆様にも重ねて感謝申し上げます。

平成22年以来3年ぶりに札幌で開催された大会でした。一日目の講習会では、福岡教育大学教職大学院教授 京極邦明氏を講師としてお招きし、「数学的活動を促す教材研究」という演題で、授業作りの原点となる教材研究の大切さを様々な例を用いて示していただきました。京極先生の「奇をてらわなくとも、オーソドックスな課題でも教師のさじ加減一つで数学的活動を促す課題になる。」のお話が大変印象に残りました。生徒が生き生きと活動し、わかる授業が行われるためには、私たち教師の教材研究を始めとする研鑽を積み重ね、力量を高めるための不断の努力にかかっているのだという京極先生の思いが十分に伝わってきました。「教師の役割や使命、生徒への影響力」をあらためて考えさせられ、また明日から教材研究に一層励もうと決意させられる有意義な講習会となりました。

大会二日目は、午前には札幌市立琴似中学校を会場に3名の先生に特設授業を公開していただきました。午後は、札幌市生涯学習総合

センター「ちえりあ」に会場を移動し、領域別分科会と日数教全国大会に向けての学習会が開催されました。

特設授業では、問題解決学習をベースにグループ活動、言語活動や数学的活動について工夫された試みがあり、今後の授業作りのヒントになったのではないのでしょうか。領域別分科会では全道各ブロックから8つの研究実践に基づいたレポート発表があり、参加者の高いレベルでの活発な話し合いがなされました。参加者皆様のおかげで有意義な二日間となりました。

新学習指導要領の全面実施にともない今まで以上に授業時数の確保が叫ばれています。従来の北数教大会では、二日目会場校は一般生徒を下校させ、一日会場を借り切って行われておりましたが、授業時数の確保にともないそれが難しい昨今の状況にあります。今大会は会場校の教育活動に支障のないよう、午前の特設授業を会場校の平常授業と並行して特別教室を使い行いました。併せて、授業会場校の放課後活動を保障する意味で領域別分科会等は別会場に移動して行いました。中学校部会では初めての試みでしたが、他教科の研究大会ではずいぶん前から行われているようで、北数教も今後はこのようなスタイルが主流になるのではないのでしょうか。

今年はオホーツク大会、北見市での開催となります。昨年以上の皆様の参加を期待しております。11月に北見市でまたお会いしましょう。

「第69回北海道算数数学教育研究大会 オホーツク大会へのお誘い」

「社会に生きる・社会に活かす」算数・数学教育の探究



北海道算数数学教育会 中学校副部会長
清里町立清里中学校長 竹花 史康

平成26年度、第69回北海道算数数学教育研究会は30年振りにオホーツク管内の北見市で開催いたします。今までオホーツク管内算数数学教育研究会として、小学校と中学校の教員が共に手を取り合い、毎年、管内規模の研修会や公開研究大会の実践を行ってきましたが、なかなか全道大会までには至りませんでした。

しかし、今回、ようやく高校との連携も進み、念願でありました北海道算数数学教育研究会の機会をいただくことができ、心より嬉しく思うとともに、感謝しております。

オホーツク管内は学校数も多く、東西200km以上にもおよぶ広い管内であるため、なかなか仲間が一同に会して集まるのが難しい地域でもあります。そうしたなか、あえて全道規模の大きな研究大会に挑戦することで、距離や時間を乗り越えた数学教育の研究を進めることができると考えました。そして、そのことがオホーツクの子供たちはもとより、北海道の数学教育の発展に少しでも役立てるのではないかと考えております。

また、全道各地で実践されている皆さんからご意見やご示唆をいただくことにより、教師一人一人の力をつける良き機会としたいと思っております。

北数教の研究主題『「社会に生きる、社会に活かす」算数・数学教育の探究』、北数教中学校部会の研究主題『「生きる力」を育てる数学教育の実践研究』をしっかりと受けとめ、オホーツクでは『主体的に考え、表現する生徒の育成を目指した授業改善』に視点を置き、実践的な研究を進めております。

特に、問題解決型の授業実践を中核に据えながら、毎時間ごとの学習内容の定着をしっかりと図ることのできる適切な練習問題のあり方について、取り組んでいるところです。

ぜひ全道各地より多くの皆様にご参加いただき、私たちオホーツクにおける実践を率直に厳しく評価いただければ、このうえなく嬉しく思います。

しかしながら、大会に携わっている教師の多くは、大きな研究大会をほとんど経験したことのない若い教師ばかりです。北数教中学校部会、総括本部と連携しながら、大会の成功に向けて精一杯頑張りたいと思っております。

多くの皆様のご参加を心よりご期待申し上げ、30年振りに開催することとなります。第69回北海道算数数学教育研究大会オホーツク大会のご案内とさせていただきます。

第69回 北海道算数数学教育研究大会 オホーツク大会

中学校部会の日程（予定）

【1日目】	11月6日(木)	13:30	14:00	14:50	15:00	16:30	16:40
	北見市立南中学校 (北見市南町1丁目2-64)	受付	特設授業	移動	授業分科会	移動	部会交流会
【2日目】	11月7日(金)	8:30	9:00	11:00	11:45	13:00	14:50
	北見市芸術文化ホール(北見市泉町1丁目3-22)	受付	講習会	開会式	昼食	領域別分科会	

第68回 北海道算数数学教育研究大会を振り返って

『講習会』 会場:札幌サンプラザ

【演題】

「数学的活動を促す授業づくり」

講師 京極 邦明 氏
福岡教育大学教職大学院 教授



『特設授業』 会場 札幌市琴似中学校

2日目に行われた特設授業は、以下の学年と単元名でした。それぞれ授業者に「特設授業を振り返って」という内容で執筆していただきましたので掲載させていただきます。

1年「方程式」

札幌市立青葉中学校 柳本 美羽

北海道算数数学教育研究大会の特設授業という機会を与えてくださり、ありがとうございます。

私が所属している研究グループでは、『数学的モデル化』について、研究していました。数学を身近に感じたり、数学は社会の中で実際に使われていることを感じたりしてほしい、数学を使って問題を解決しようとする生徒を育てていきたい。そのような思いからグループの研究テーマが決まりました。1年生の『方程式』を題材にすることは早い段階で決まりました。少し複雑な方程式を使って解決でき、なおかつ実生活に即した問題を考えるのは困難な作業でしたが、普段実感することのできない「速さ」を自分で設定(モデル化)し、展開していく授業となりました。自分一人では、今回の授業をつくることはできませんでした。授業づくりを共に行ったグループのメンバーや顧問の先生には本当に感謝しております。

今回の授業を通して学んだことを普段の授業に生かし、少しでも生徒に還元していきたいと思っております。



2年「1次関数」

札幌市立美香保中学校 鈴木 裕人

今回、特設授業の話をしていただき、大変光栄であると思うと同時に、授業に対する不安もありました。ですが、北数教の研究グループの先生方には、お忙しいさなか何度も検討の機会を作っていただけては、さまざまなアドバイスをいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

授業は2年生の「1次関数の活用」ということで、グループ活動を通して問題解決をしていくことを中心に授業展開を考えていきました。当日はなかなか思うようにいかないことも多々あったのですが、授業後には多くのご意見をいただき、大変勉強になりました。今回授業をさせていただいたことで、自分の力不足を感じ、今まで以上にいい授業を目指して、日々努力していかなければならないと思いました。

最後になりますが、本大会で授業を行うにあたり、北数教の役員ならびに事務局の方々、琴似中の先生方に変なお世話になりました。誠にありがとうございました。



3年「相似な図形」

札幌市立八条中学校 関本 孝紀

今回の札幌大会において、このような特設授業の機会を与えていただきありがとうございました。私たちの研究グループでは、授業において小集団活動を取り入れて、数学に対する意欲関心を引き出す方法やその効果などを研究しています。その研究の一環として今回の授業をさせていただきました。たくさんの方からご意見をいただき、私自身とても勉強になりました。

授業の内容としては、教育出版の教科書143ページに掲載されている「みんなでやってみよう」という小集団活動に適した題材を少しアレンジして取り扱いました。角の二等分線と、線分の比の関係について予想し、それを説明するというものでした。アレンジの内容としては辺の長さを与えることで、より具体化されると思い取り組ませました。また小集団もリーダー、情報屋などの役割を与え、数学が不得意な生徒にも活躍の場を与えました。今後も小集団活動に適した問題収集や活動の工夫などに取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、北数教のグループの先生をはじめ、役員の方々、事務局の皆様にも感謝申し上げます。



ホームページを見ていただくために

北海道算数数学教育会
中学校部会

北数教

Since 1999.7.6
Last update 2013.4.14

あなたは 012774 人目の訪問者です

更新情報

2013/4/14	第37回大会 指導案集	更新
2012/7/1	第36回大会 第2号会報	更新
2012/5/15	第36回大会 第1号会報	更新
2011/12/27	第35回大会 指導案集	更新

2013年度 第38回 北海道算数数学教育研究大会
札幌大会

日付：2013年10月24日(木)・25日(金)

1日目：講習会 幹事別交流会
2日目：特設授業 授業分科会 演習別分科会

会場

1日目：札幌サンプラザ
2日目：札幌市立琴似中学校
札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」

お願い・お知らせ

平成25年度、更新された会員の方は、更新元と更新先をお知らせください。下記メールアドレスからお知らせいたします。

info@hokkaido-math-edu.com

北数教中学校部会のホームページを平成23年度より変更をしています。

『指導案集』という項目を設けて10月の大会で行われた特設授業の指導案をPDFで載せていくことにしました。

残念ながら大会に参加できなかった会員のため、またより多くの方に北数教に興味を持っていただくためにも毎年掲載していく予定です。

今後見やすく、役に立つホームページを目指していきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いいたします。

この件につきまして何かありましたら事務局までご連絡ください。



『領域別研究発表』

【学習指導法】

基調発表

札幌市中央中学校 保格 諭 先生

「つぶやき」を視点にした授業作り
- 楽しい+生きる力が育つ授業への挑戦 -

北海道札幌開成高等学校
伊藤 道男 先生

数学的な見方や考え方を高める比較を取り入れた学習指導の工夫

北見市小泉中学校 野口 朝央 先生

【学習指導法】

基調発表

札幌市美香保中学校 鈴木 裕人 先生

課題意識を持たせ、主体的に学習活動へ取り組むための授業の進め方

函館市赤川中学校 渡部 慶一 先生

生徒の表現力を育成するための数学の指導のあり方
～レポートの工夫と発表を通して～

札幌市平岡中央中学校 中澤 宏佳 先生

【問題解決・課題学習】

基調発表

札幌市北都中学校 高橋 靖昌 先生

生徒同士の「学び合い」を高めていく授業の研究

北海道教育大学附属札幌中学校 中村 隆城 先生

「考える力」を育てる学習活動の展開
～問題解決的な学習の日常化と数学的活動の充実を目指して～

旭川市聖園中学校 山本 英貴 先生

【学習指導法 教材・教育機器】

基調発表

札幌市月寒中学校 小林 裕幸 先生

「数学的な表現力・判断力・思考力を育む授業の創造」
～言語活動の充実を通して～

江別市大麻中学校 中村 大介 先生

生徒が主体的に既習事項を活かし、新たな知識を見出していく授業作り

札幌市石山中学校 木浪 悠 先生

< 編集後記 >

北数教中学校部会会報『すうがく』の第28号をお届けいたします。多くの先生に執筆をご協力いただきました。ありがとうございました。北数教も平成27年度の第70回大会は全国大会を兼ねています。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。学校や学級、そして部活動などに熱心に指導されている諸先生方にも、ぜひ参加していただき、北海道算数数学教育会の輪を広げていきたいと考えております。

(文責:札幌・八条中 関本孝紀)

今回の札幌大会において、このような特設授業の機会を与えていただきありがとうございました。私たちの研究グループでは、授業において小集団活動を取り入れて、数学に対する意欲関心を引き出す方法やその効果などを研究しています。その研究の一環として今回の授業をさせていただきました。たくさんの方からご意見をいただき、私自身とても勉強になりました。

授業の内容としては、教育出版の教科書143ページに掲載されている「みんなでやってみよう」という小集団活動に適したと思われる題材を少しアレンジして取り扱いました。角の二等分線と、線分の比の関係について予想し、それを説明するというものでした。アレンジの内容としては長さを与えることで、より具体化されると思い取り組ませました。また小集団もリーダー、情報屋などの役割を与え、数学が不得意な生徒にも活躍の場を与えました。

札幌では、年に1度市教委主催の公開授業(札幌教研)を行っていて、数学科は各区で1本授業を出すことになっています。しかしながら、輪番制になっているので、勤務校で公開授業を行うのはだいたい10年に1度ということになります。私自身、20代に札幌教研で授業を行って以来の公開授業でした。校内研修会もありましたが、若手の先生が中心に授業を行っていました。以前は、部活中心主義と自分の授業への過信からなかなか研究大会への参加の必要性を感じていなかったのも正直なところでした。しかしながら、30代半ばを過ぎ、TTとして同僚の授業を参観することで、違った指導法を学ばさせていただいたり、また、色々な授業作りにも参加させていただきました。それによって、指導の幅の広がりを感じることができました。今回は授業者として、来年度の日数教北海道大会に向けての研究の準備として授業をさせていただき、我々の研究グループの諸先生には、アドバイスをいただき感謝しております。